



# 学校だより

令和5年9月1日  
横浜市立太田小学校  
9月号

## まち・ひと・つながり

校長 丸山 稔

子どもたちが元気に学校に帰ってきました。

記録的な猛暑の夏休みでしたが、皆様元気で過ごしてはいかがでしょうか。暑い暑い夏ではありましたが、今年は、盆踊りなどの地域行事をコロナ前に戻して開催する町会が多く、子どもたちには、思い出に残る楽しい出来事がいっぱいある夏休みだったのではないのでしょうか。一部ですが、私も学区の夏祭りに副校長と立ち寄らせていただき、夏休み中の子どもたちに会うことができました。顔を真っ赤にしながら猛暑もはねのける元気で山車を引いたり太鼓を叩いたりしている子、友達や家族と踊りの輪に入って楽しそうに踊る子、櫓の上で見事な一人踊りを披露してかっさいを浴びる子、…きらきらした弾ける子どもたちの姿を見ることができて、とてもうれしかったです。引っ込み思案だった小学生の頃、友達に引っ張られいやいや盆踊りの輪に入れられたのに、しまいには誰よりものりのりで踊って大笑いして帰ったことなど、遠い昔の出来事を思い出したりもしました。

子どもたちのために大変なご苦勞をされて準備、運営をしてくださる町会や子ども会のみなさんの姿には、ほんとうに頭が下がります。最近、地域のひとひとの関わりが以前より希薄になり、地域行事に参加する子も減ったと聞きますが、顔が分かって挨拶できる地域の方に温かく見守っていただける太田の子どもたちは幸せだなあとつくづく思いました。地域のひとひとの結び付きの強さは、防犯や防災にも大きな力を発揮します。子どもたちが地域の行事に参加することは、子どもの成長にとっても、安心・安全なまちづくりにとっても大切なことだと思います。みんなが顔見知りや相談したり助け合ったりすることができる関係、子どもをまちぐるみで見守り育てられる関係など、まちに根付いている、地域に暮らす人同士のよき関係がこれからも続いてほしいと願っています。



先日の引取り訓練の際は、ご多用の中ご協力いただきありがとうございました。今日9月1日は防災の日。制定の由来となった関東大震災から今年でちょうど100年になります。昔から、「天災は忘れた頃にやってくる。」と言います。私たちの住む地域は、「関東大震災規模の大地震がいつ来てもおかしくない。」と言われ続けて久しいですが、それゆえに「慣れ」が生じ「忘却」が進んでいないかと心配です。いつか必ず来る大地震に備え、防災意識を高くもっていたいと思います。

